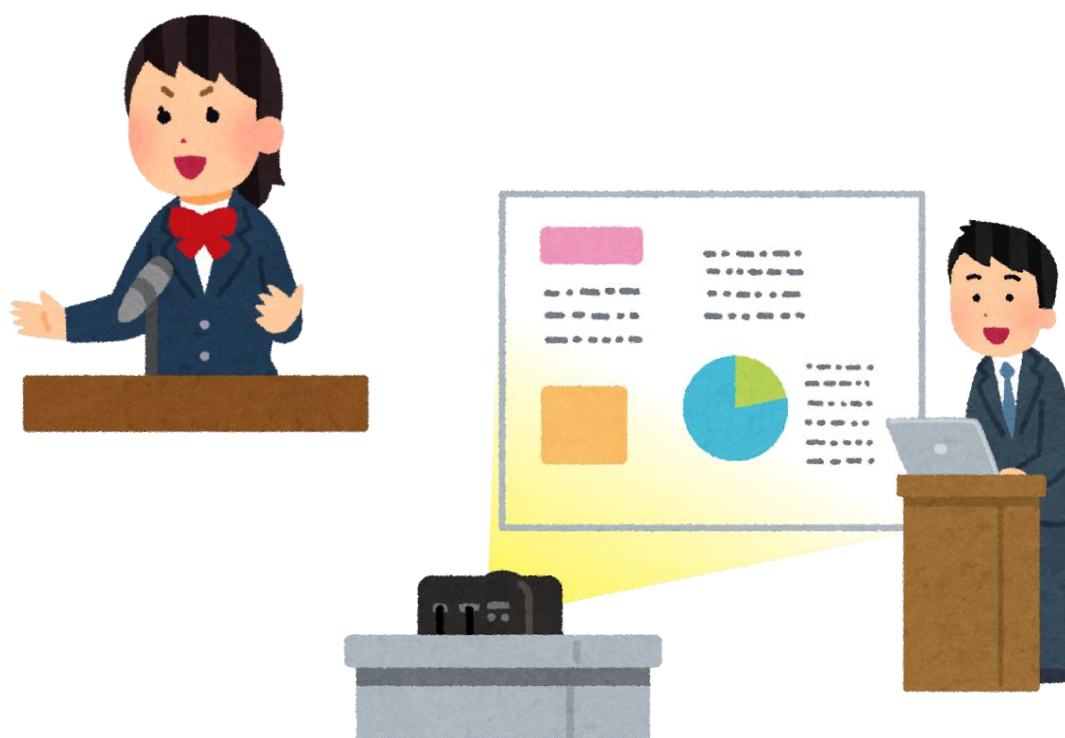


令和7年度

生徒の英語力向上推進事業

自治体連携アライアンス 高校英語授業実践事例集



自治体連携アライアンス運営委員会

はじめに

デジタル技術の急速な進展や生成 A I の普及により、英語教育は、大きな転換期を迎えています。グローバル化が進む社会において、生徒一人ひとりの能力に応じた「個別最適な学び」と、対話を通じた「協働的な学び」を一体的に充実させていくことが現場の喫緊の課題です。

学習指導要領では、指導計画の作成と内容の取扱いにおいて、「生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること」と示されています。また、文部科学省の「初等中等教育段階における生成 A I の利活用に関するガイドライン」においても、「A I 時代を生きる子供たちが生成 A I をはじめとするテクノロジーをツールとして使いこなし、一人一人が才能を開花できるようになることは重要」とされています。

こうした、新たな技術の進展への対応や言語活動の質的な向上といった、英語教育を取り巻く多様な課題に対し、各自治体では独自に「英語教育改善プラン」を策定し、日々創意工夫を凝らした取組を進めています。これらの各県における実践や知見を、域内の枠を超えて共有し合い、互いに高め合うための「学びのプラットフォーム」として、令和4年度に「自治体連携アライアンス」を立ち上げました。当初、山梨県、静岡県、三重県、鹿児島県の4県からスタートしたこの取組は、令和7年度には新たに沖縄県を加え、5県による広域的な連携体制へと発展しました。

本アライアンスでは、武蔵野大学の江原美明特任教授を助言者に迎えた年2回の「合同オンラインセミナー」を開催したほか、各自治体の取組に関する情報交換などを行ってまいりました。

本冊子は、これまでの取組をもとに、高校英語授業での具体的な実践事例をまとめたものです。I C Tの効果的な活用や生徒同士の対話を引き出す工夫など、各県の実践に基づいた授業の展開例や解説を掲載しています。

本実践事例集を活用いただき、生徒が主体的に英語を使い、その力を伸ばしていくためのヒントとして、言語活動のさらなる充実と、生徒の確かな英語力の育成に役立てていただけるようお願いしています。

令和8年3月
自治体連携アライアンス（山梨県・静岡県・三重県・鹿児島県・沖縄県教育委員会）

<目次>

はじめに

1 これからの高校英語授業に向けたリマインダー・・・・・・・・・・ 1

武蔵野大学 特任教授 江原 美明

(生徒の英語力向上推進事業 自治体連携アライアンス運営委員会 顧問)

2 実践事例

～自治体連携アライアンス所属の実践事例～

(1) 山梨県・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

(2) 静岡県・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

(3) 三重県・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

(4) 鹿児島県・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

(5) 沖縄県・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

これからの高校英語授業に向けたリマインダー

武蔵野大学教育学部

江原美明

デジタル化と生成 AI の普及により、ここ数年で英語教育をめぐる環境は激変しました。AI が瞬時に多言語間の通訳ができる時代に、外国語を苦勞して学ぶ意義があるのか、個別・最適な学びを追求するなかで、生徒全員に同じカリキュラムで授業をすることは妥当なのか、小・中学校で英語が苦手になってしまった生徒をどう支援するのか。こうした課題の中にあって、目の前の生徒たちの **well-being** に資する指導と評価をどう実現するかは、現場の先生方が日々直面している問いではないでしょうか。おそらく、こうした問いへの答えを出すのに最も近い位置にいるのは、実際に生徒を教えておられる先生方でしょう。

本稿では、過去数年間のアライアンス研修でお話しさせていただいたテーマを再整理し、指導環境に違いはあっても、これからの高校英語授業に向けてあらためて確認しておきたい基本的なポイントを、リマインダー（備忘録）として共有させていただきます。

1. Share rules and goals.

高校教師時代、授業がうまくいかなかった日の放課後は、職員室で一人反省しながら過ごした記憶があります。しかし、その原因を振り返ってみると、多くの場合、私と生徒との間で、そもそもの授業内容に関する「**前提**」や「**期待**」にずれがありました。教師が目指す授業と、生徒が思い描いている授業とが噛み合わないまま進むと、活動が形だけになったり、思うような反応が得られなかったりします。教師と生徒とが、何を**大切**にする授業なのか、何ができればよいのかを納得した上で共有することの重要性を、今でも痛感しています。そこで、第1のリマインダーは、生徒と目標を共有したい「**クラスのモットー**」、教師自身が心にとどめるとよい心構え、そしてテストの内容を事前に示すことの意義です。

(1) Three Rules [心地よい教室の雰囲気を作るためのルールです]

- Be nice. → Nod, smile, and applaud.
- Help each other. → Face each other, show interest, give feedback.
- Speak English. → Don't be afraid of making mistakes.

(2) Three Principles [教師自身の心構えも授業の雰囲気に影響します]

- Stay curious; keep learning.
- Collaborate with students.
- Develop good language habits. (=教師自身が英語を使うようにする)

(3) Share test specifications beforehand [テスト内容を事前に生徒と共有するとよいです]

定期テストやパフォーマンステストの内容を学期初めに示すことで、生徒は何をすればよい成績がとれるかがわかり、やる気につながります。

2. Make speaking English a routine.

ルーティーンとは「習慣的に行う行動」を意味します。日常的に英語を使わなくてもすむ日本の環境で、英語力を維持・向上させるためには、ある程度の目的意識や英語への興味・関心が必要です。しかし全ての生徒が英語に強い関心を持っているわけではありません。そのような状況の中で、英語の授業を（生徒の実態に応じて）英語で行うことの意義の一つは、英語を使うことを日常化する、いわば**習慣づけ（routinization）**にあると考えています。以下では、授業の中に無理なく取り入れることのできる **routine activities** を紹介します。

(1) **Small Talk** [身近な話題についてのやり取りで流暢さを高めます]

(2) **Picture Description** [イメージと英語を頭の中で瞬時に結びつける力を高めます]

ペアで、絵や写真を英語で描写・説明する活動です。

(3) **See, Think, Wonder*** [日本語を介さずに考えながら英語を話す力を高めます]

写真などを見せながら生徒に次の3つの質問をし、考えながら英語を使う習慣を育てま

す。（* Harvard 大学 Project Zero が開発した思考力育成活動を、英語の授業用に質問を単純化して行います。）

Question 1: What do you see? — I see ...

Question 2: What do you think is going on? — I think ...

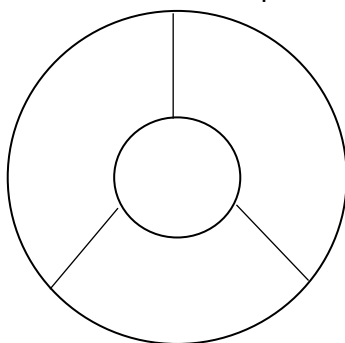
Question 3: What questions do you have about this picture?

— Who / What / When / Where / Why / How...?

3. Train students to think quickly.

外国語としての英語を話す際の思考プロセスを単純化すると ① 話す内容を考える ② 話す内容を、自分の知っている範囲の英語で組み立てる ③ 組み立てた英語を頭の中で音声化する ④ 発話する といった段階に分けることができます。このうち、①の段階で「話す内容が**すぐに思い浮かばない**」という問題に対処するための活動として、**Think in Threes for Speaking** があります。あるテーマについて、1つだけでなく、3つ話すことを求める活動です。例えば、**What did you do yesterday?** と質問した後に、**Say three things!** と付け加えます。生徒は下の図の中央に、yesterday と書き、周りの3つのスペースに、昨日したことを3つ（過去形で）メモします。その後ペアでやり取りを行います。

<Think in Threes for Speaking>



4. Get students to tell, retell, and ask questions.

私たちは日常生活で、自分の経験や出来事を人に伝えたり、人から聞いた話や本で読んだ内容を別の人に伝えたりするといった **storytelling** を頻繁に行っています。母語習得の過程においても、私たちは **storytelling** を通して多くのインプットを得ています。生徒が話す (tell)、再話する (retell)、そして話の内容について質問する (ask questions) 活動は、外国語としての英語習得においても、理解と表現を結ぶ重要なプロセスと言えます。

ここでは、One-minute speech + a question 活動を紹介します。手順は次の通りです。

- ① 当番の生徒が 30 秒から 1 分で最近の出来事や経験を話す。(生徒には、後で教師が行う質問にクラスメートが答えられるよう、分かりやすく話すことを伝えておく。)
- ② スピーチ後、内容について教師が全体に複数の質問をし、理解を確認する。
- ③ その後、当番の生徒がスピーチの最後になげかけた質問についてペアで話させる。

以下は中学校レベルの例です。

This winter, I went to Hokkaido. There, I enjoyed playing in the snow.

I also ate ramen, and it was delicious. I saw beautiful snowy mountains, too.

I had a great time. How was your winter vacation?

この活動で重要なのは、導入段階では十分な支援を与えておくことです。具体的には、*had a great time* のようなチャンク、少し情報を足すことで文になる *sentence stems* (上記下線部)、*This winter...* ではじまり *I had a great time.* で終わるといった *discourse structure* を意識させることです。

5. Help students to get the big picture and get to the point.

高校で扱う英文は、中学校に比べて言語材料も話題も高度になります。学校によっては、精読中心の課とコミュニケーション活動中心の課をあらかじめ設定し、メリハリをつける工夫をしているところもあります。テキスト理解で重要なのは、読んで理解すると同時に、何が書いてあったのかを大局的に捉え、自分の言葉で要約し、自分なりの考えや意見を述べられるようにすることです。これは、将来にわたって必要となるスキルです。そこで紹介するのが、**要点把握**と**意見表明**を同時に促す **Wrap-Up Frame** です。生徒は読んだ英文のトピック (①)、学んだ内容 2 つ (②③)、自分のコメント 1 つ (④) をテンプレートに埋めて発表します。その日のまとめとしても、*Last class, we learned about...* のように次回の授業で復習する場合にも使えます。下の例は、Walt Disney とその名言についての課を読んだ後のまとめです。②③で本文のどこを選ぶかは生徒に任せます。

< Wrap-up Frame >

Hi, everyone! Today we learned about ① Walt Disney.

We learned that ② many people didn't understand his vision but he worked hard.

We also learned that ③ Disneyland opened in 1955.

So I think 1) it's important to ④ have dreams and work hard.

2) we should _____.

3) _____.

6. Assess what you teach.

「教えたことを評価する」ことは、生徒にとっては授業とテスト（またその先の進路実現）とのつながりが明確になることでやる気につながりますし、教師にとっては目標に向けた指導の結果を振り返ることで指導改善につながります。1～5で紹介してきた授業のリマインダーを例にとると、以下のような視点で**目標**を設定し、**指導**を行い、**評価**につなげていくことになります。英語の授業では「指導」を「活動」と置き換えるとよいでしょう。生徒にとって本当に必要な目標に絞り、繰り返し練習や活動の機会を増やすことが、生徒を目標達成へと近づけると考えます。

- (1) **Share rules and goals:** 相手に配慮しながら授業を受ける態度を身に付けるという目標を生徒と共有し、授業中も随時リマインドする。評価は、授業中の観察や個人内評価とする。
- (2) **Make speaking English a routine:** 絵や写真を見て英語で説明できるようにするという目標に向けて、継続的に Picture Description 活動を行う。評価は、授業中の観察やテストで行う。
- (3) **Train students to think quickly:** 身近なトピックについて会話を継続できるようにするという目標に向けて、Think in threes 活動を行う。評価は、インタビューテストなどを通して行う。
- (4) **Get students to tell, retell, and ask questions:** 自分の経験について 30 秒～1 分程度のスピーチができるようにするという目標に向けて、輪番で授業内発表を行う。教科書の音読活動（穴埋め音読などを含む）にも力を入れる。評価は、授業内での観察や個別テストで行う。
- (5) **Help students to get the big picture and get to the point:** 学んだ内容を要約し、自分のコメントを加えて発表できるようにするという目標に向けて、Wrap-up Frame を用いた活動を行う。教科書についての QA 活動にも力を入れる。評価は、授業内または個別テストで行う。

7. Design enjoyable, goal-oriented lessons with AI and ICT

英語教師にとって、ICT や生成 AI の有効活用は大きな課題となっています。しかし重要なのはツールそのものではなく、**目標達成に向けて「楽しくためになる」指導（活動）や評価をどのように設計するか**という点です。さらに ICT や生成 AI を、授業内の活用にとどめるのではなく、**授業と家庭学習を結ぶ自律学習ツール**として活用することにも可能性があると考えます。例えば、私が担当する英語の授業の一つでは、毎回数人の学生に近況報告 (Personal Anecdote) を 1 分程度行うタスクを課しています。手順は以下の通りです。

- ① [家庭学習] 生成 AI を活用してスピーチ原稿を作成しリハーサルをする。
- ② [授業] 学生が発表し、教師は自動トランスクリプト機能付きレコーダに録音する。
発表に関する Q & A 活動を行う。必要に応じ発表についてフィードバックをする。
- ③ [授業後の教師のデータ処理] トランスクリプトを PC に転送し、生成 AI を用いて校正し（所要時間は 1 人につき 5 分～10 分程度）、穴埋めトランスクリプトを作成する。
- ④ [次時の授業] ③で作成した穴埋めトランスクリプトを用いて全体で内容を思い出す。[※穴埋めは文法事項ではなく、発表内容にとって重要な動詞・名詞・固有名詞を中心とする。意味内容を想起しながら、重要なチャンクを再度インプットすることをねらいとしている。]

また、アライアンス研修参加者（2025 年 7 月 28 日実施）からは、ICT・AI 活用に関する実践として、次のような指導および評価の工夫が寄せられました。

- オンライン英会話を導入し、Unit の終わりに生徒に英会話の機会を与え、その後授業でその結果を共有する。
- ロイロノートを使い生徒のスピーキング音声を録音・提出させ、後からフィードバックする。また、Google フォームでアンケートを実施し、生徒の理解度や意識調査を行う。
- 英作文の模範解答作成において AI を活用してレベル調整を行う。
- 英作文問題用評価ルーブリックを AI を活用して作成する。
- 定期考査リーディング問題用に、教科書本文のパラフレーズを AI を活用して作成する。
- 定義から単語を想像させる活動で、「英検 2 級程度の単語を使って 15 語で定義を書いて」と prompt を出したり、教科書本文のパラフレーズを、AI を活用して作成したりする。
- 新出文法を含む会話例作成、その会話例に合う画像の生成、自ら作成した英文をより自然なものに直す作業などを、AI を活用して行う。

【リマインダークイズ】

最後までお読みいただきありがとうございます。1～7 までのリマインダーで言及した内容に関する空所補充クイズにトライしてみてください。解答はこのページの下にあります。

1. 教師と生徒とが、何を（ ）にする授業なのか、何ができればよいのかを納得した上で目標を共有することが重要だ。
2. 英語を使うことを（ ）づけ（routinization）することが重要だ。
3. 英語が話せない理由のひとつとして「話す内容が（ ）」ということがある。
4. 私たちは日常的に（ ）を行っている。
5. 要点把握と意見表明を同時に促すテンプレートとして（ ）がある。
6. 目標・指導・評価の一体化と言うとき、英語では指導を（ ）と考えるとよい。
7. ICT・AI の活用の方向性のひとつは、授業と（ ）とを結ぶ自律学習ツールとしての活用だ。

Relevant Readings and Web Resources

DeKeyser, R. M. (Ed.). (2007). *Practice in a second language*. Cambridge University Press.

亀谷みゆき・竹内理・江原美明・長沼君主. (2024). 『高校英語のパラダイムシフト: 進化する授業づくりのヒント』. 三省堂.

Levelt, W. J. M. (1989). *Speaking: From intention to articulation*. Cambridge University Press.

文部科学省. (2017). 中学校学習指導要領英訳版（仮訳）外国語

https://www.mext.go.jp/content/20220603-mxt_kyoiku02-000005242_003.pdf

Project Zero. (n.d.). *See, think, wonder / PZ's thinking routines toolbox*. Harvard Graduate School of Education. <https://pz.harvard.edu/resources/see-think-wonder>

Segalowitz, N. (2010). *Cognitive bases of second language fluency*. Routledge.

Willis, J. (1996). *A framework for task-based learning*. Longman, England.

【リマインダークイズ解答】

1. 大切 2. 習慣 3. すぐに思い浮かばない 4. storytelling（経験や出来事を語ること）
5. Wrap-up Frame 6. 活動 7. 家庭学習

実践事例

～自治体連携
アライアンス所属の
実践事例～

山梨県：生成 AI を活用した書くことの指導について

【事例】（令和 7 年度教育課程研究集会外国語部会 実践発表資料より）

1. 対象・科目：山梨県立 A 高校 1 年生・英語コミュニケーション I

2. 取組の特徴：

- 「書くこと」の指導と評価にまつわる課題を、1 人 1 台端末上で生成 AI を活用することで解消。

課題①生徒の習熟度に応じたフィードバックが難しい→表現の幅が広がらない

②生徒がフィードバックを得られるまでに時間差がある→「書くこと」への意欲低下

③フィードバックに対する教員側の負担感→「書くこと」の扱いの減少

- 生徒は書くプロセスの中で生成 AI（TRANSABLE※）を使用して自己添削・ブラッシュアップを行う。

※書き直し支援に特化した生成 AI。大きく 3 つの利点がある。

利点①生徒が使用できるプロンプトが限定されている。

②誤りの修正について理由を含めて提示される。

③様々なテストの評価基準（TOEFL, GTEC, CEFR-J 等）に照らし合わせたフィードバックも可能。

従来

South Korea and Australia high school students is wearing school uniforms which look like Japan.
Korean Australian wear those in Japan

AI
添削

修正された文章: South Korean and Australian high school students wear school uniforms that look similar to those in Japan.

解説:

- 理由**
1. South Koria → South Korean
○「South Koria」は「South Korea」のスペルミスです。そして、国名を形容詞として使うときは「南韓の」という意味になるので、「South Korean」となります。
 2. Australia → Australian
○「Australia」は国名ですが、「オーストラリアの」という意味にするためには「Australian」という形容詞を使います。
 3. students is → students wear
○「students」は複数形なので、それに対応する動詞も複数形にする必要があります。したがって、「is」ではなく「wear」とし、意味も自然に表現するために現在形を使います。
 4. which look like Japan → that look similar to those in Japan
○「which」という関係代名詞を「that」に変更することでより自然な印象にしました。また、「look like Japan」は「日本に似ている」という意味になり、やや不自然です。ここでは「制服が日本のものと似ている」という意味なので、「look similar to those in Japan」としました。これにより、より明確な表現になっています。

この修正で、文章がより文法的に正しく、意味が明確になりました。

AI
ブラッシュ
アップ

[英文専用] 他の英語表現はありますか

AIに尋ねる

- High school students in South Korea and Australia wear school uniforms **similar to** those in Japan.
- Students in South Korean and Australian high schools wear uniforms that **resemble** Japanese ones.
- School uniforms worn by South Korean and Australian high school students **resemble** those in Japan.

[英文専用] もっと平易な表現にする

AIに尋ねる

- High school students in South Korea and Australia wear school uniforms **similar to** those in Japan.
- Students in South Korea and Australia wear school uniforms that **look like** Japanese ones.

誤りとその理由を即座に理解することができる

言い換え表現を学べる

3. 授業の流れ：

- ①「学校の制服」を題材にした単元の読み取りを行った後、場面設定に基づいてリテリングを行う。

場面設定「学校行事で出会った中国出身の小学生が日本の制服に興味を持ち、他国の制服についても知りたがっている。その相手に対して教科書の内容を言い換えてリテリングする。」

- ②生徒それぞれが目標設定し、リテリングのための原稿を作成する。
- ③生成 AI（TRANSABLE）を使用して自己添削とブラッシュアップを行う。
- ④ブラッシュアップ後の原稿を用いてペアでリテリングとピア・フィードバックを行う。
- ⑤振り返りと目標設定に対する自己評価。

4. 分析と検証：

別の単元でも同様の指導を継続した結果、多様な英語表現の工夫、情報の簡略化や一般化、詳細な説明や自分の感想の付与など、複数の生徒において書く力と意欲の向上が認められた。前掲の課題①②③の解消に向けて一定の成果が見られる実践であった。

静岡県 生成 AI を使って、個別最適な学びを

【事例①】（令和 7 年度教育課程研究集会外国語部会資料より）

対 象：3 年生 学校設定科目選択者

課 題：生徒の学力差が大きい。自作ワークシート作成に時間がかかる一方で、生徒主体の授業にならない。

取 組：教材の選択やまとめ方を生徒に委ね、「学びに向かう力」を涵養する。

（インプットするための教材をレベル分け・ノートに各自でメモ）

手 法：テキストを、生成 AI を用いて A1・A2・B1 の 3 つのレベルに書き換える。（注：単語については、B2 レベルまで含んでいる）読んだことの概要を捉え、各自工夫してまとめる。

単元の流れ：①生徒がレベルを選んで読む ②内容をイラスト、キーワード等でまとめる
③クラス全体でノートを共有する ④良い例を参考に、各自ノートに加筆修正する
⑤ペアに内容を口頭で説明する ⑥ペアに話したことを英語で書いてまとめる
⑦クラス全体で良い要約を共有する

評 価：ペーパーテストには初見の各レベルの英文を使用する。パフォーマンステストは要約や意見を書く等、授業で指導したことを評価する。評価基準はできるだけシンプルに。

	A1	A2	B1	B2
A1レベル	First, smart kids can grow thanks to skipping a grade. Classes are usually for average students. Smart kids get bored. They may lose interest because of boring classes. Skipping a grade lets them study at the right level. They'll be more interested and do better.			
A2レベル	First, skipping a grade can help smart students grow. Normally, classes are set up for the average student. But if a student is much smarter than everyone else, they might get bored in class. Boring classes can make them lose interest in learning and not reach their full potential. If they skip a grade and learn at a higher level, they'll be more interested and do better.			
B1レベル	To begin with, grade skipping can benefit talented students' development. Typically, classes are designed to suit the average student's abilities. Yet, highly creative or intelligent students may find these classes uninteresting. This lack of engagement can hinder their progress as they lose interest in their studies. By skipping a grade and studying at a level that challenges them appropriately, they can maintain their interest and enhance their talents more effectively.			

参考: English Level Checker-東京工業大学 <https://www.lr.first.iir.isct.ac.jp/gradesystem/>
: CVLA3.0: CEFR-based Vocabulary Level Analyzer CVLA3.0: CEFR-based Vocabulary Level Analyzer 12

【事例②】（令和 7 年度パフォーマンステスト良問事例より）

対 象：1 年生 「論理・表現 I」

取 組：授業でやり取りする練習として、家庭学習でも生成 AI を相手にやり取りを行う。

手 法：夏休みの課題として、生徒が「理想の夏休み」について、生成 AI とやり取りを行う。Hello, Tell me about your ideal summer vacation. という生成 AI からの問いかけに答えて、5 回以上やり取りを行う。

評 価：既習の文法事項の活用や文の長さについて点数化する。文法の誤りや総評について、即時的なフィードバックがあり、学習者自身によるタイムリーな修正が可能になる。

【総合点】3(助動詞)+2(現在完了)+5(長さ)
=10点/10点満点

【コメント】多くの表現や文法を使いこなしています。現在完了も正しく使っており、話したいことがしっかり伝わっています。文法の細かいミスはありますが、内容が理解できるので大丈夫です。今後は、文を短く分けたり、助動詞の後の動詞の形を意識したりすると、もっとよくなります。

(生成AIフィードバック イメージ)

三重県：発信力を高める言語活動の充実 ―対話の工夫とICT活用―

【事例①】リテリングを発展させた、「ツッコミ」による思考深化の実践

(音読活動がインタラクティブなコミュニケーションにつながる活動「言語活動でつくる！英語授業づくり研修(公開授業―高一)―県高等学校英語教育研究会との連携講座」2025. 11. 14 実施 より)

対 象：学年 2 年生・科目 英語コミュニケーションⅡ

実践の背景：生徒は、ペア活動には活発に取り組むが、全体への発信にはやや消極的である。そこで、音読・リテリング後に interactive な活動を加える実践を試みた。ペア活動を通じた対話により不安を解消し、学習内容を自分事として思考を深め、教科書の「動物の社会貢献」という題材に対し、質の高い意見発信へとつなげることをねらった。

手 法：リテリングでの教科書本文の内容把握に留めず、生徒個人が独自のツッコミを入れるための対象の一文 (Punch line) を、教師が本文から選びスライドで提示することで、生徒が「犬の視点」から内容を多角的に捉え直す活動を導入した。ペアでの対話を足がかりに、クラス全体への主体的な発信を促す。

流 れ：〈①対象の一文の提示〉教師が、ツッコミを入れる対象の一文をスライドで提示する。
 〈②ツッコミの共同作成〉ペアで協力し、提示された一文に対し「犬の視点」から自由な発想で「ツッコミ」となる英文を2つ (以上) 考える。
 〈③クラスでの意見共有〉ペアで対話練習した「ツッコミ」を、クラスで発表する。



やり取り例

Student A: (Punch line となる本文を読み上げる)
 Student B: "I'm a dog, not a smartphone!
 I don't always work the way you want."
 Student A: "Oh, I see.
 So, barking is just your natural instinct?"
 Student B: "Exactly!
 I'm just talking to you. Don't label it as 'bad!'"

〈授業者より〉

普段から大半の生徒がペア活動に意欲的で、高い英語力を生かした対話が成立している。今回はその特性を生かし、リテリング後、「犬の視点で考える」という設定を導入した。これにより「正解を言わなければならない」という緊張から解放され、人間中心の考え方を問い直すユニークな意見が自発的に出される等、クラス全体への主体的な発信が見られた。今後は多様な視点を次の言語活動へつなげ、生徒の表現力をより豊かにしていきたい。

〈研修参加者より〉

- ・思考レベルの高い「ツッコミ」の活動であった。
- ・授業の組み立てや流れが参考になった。
- ・次のレッスンから取り入れてみたい。

〈助言者 (中京大学 教授 亘理 陽一 先生) より〉

本授業は、音読からコミュニケーションへつなげるというテーマ性が明確だった。今回は、教師が「犬の視点からのツッコミで」と課題を設定したが、今後は、生徒がより主体的にインタラクティブなやり取りに参加できるよう、リテリングのやり取りの中で、ツッコミを入れる一文や視点を生徒自身に考えさせるのも指導法の1つとなる。

【事例②】プロンプト1つで完成！文法理解と言語活動をつなぐスライド作成

(「ICTを活用！英語授業アップデート研修 (講義)」2025. 7. 22 実施 より)

受講対象：英語担当教員

研修講師：立命館大学 教授 山中 司 先生

取 組：文法理解や言語活動につながる授業スライドを生成 AI (Gamma) で作成した。

助動詞の使い分けポイント



生成されたスライドの一部

スライドの使用場面 (例)

○「悩み相談への対応」についての「書くこと」の活動

生徒が、must と have to 等の使い分けに迷う場面において、作成した複数のスライドの中から、「助動詞の使い分けポイント」のスライドを提示する。

言葉の使い分け方を視覚的に整理して提示することで、言語活動におけるアウトプットの質を向上させることができる。

鹿児島県：言語活動を通じた表現力の育成—対話で広げる学び，AI で深める学び—

【事例①】継続的な対話活動をととして，やり取り能力の育成を目指す授業

対 象：学年 1 年生 【英語コミュニケーションⅠ】

背景と課題：英語学習への意欲は高く，授業への取り組みは積極的であるが，即興的な英語での応答には課題が見られる。⇒話す・やり取りする力の育成の必要性

取 組：「話すこと [やり取り]」の言語活動が円滑に進むよう，良好な雰囲気づくりを重視しながら，会話を続ける表現の習得や振り返りを，ICT を活用しながら行った。

手 法：・会話で使える表現を提示し，毎授業で使用回数などのノルマを設定して定着を図る。
・毎時間テキストの導入に絡めた Small Talk を実施し，ペアでやり取りを行う。
・「よい聞き手」としての姿勢や反応を繰り返し指導する。
・やり取りを通して本文理解ができる教材を作成・活用する。
・毎授業後に振り返りシートに，改善したい点等を記入する。
・家庭学習として音読する本文を撮影し，その音読音声や＋α課題（本文の要約や話した内容の要約：ライティング活動）をロイロノート・スクールで提出させる。
・提出物を基に，生徒一人一人のつまずきや習熟度に応じた支援や課題設定を行う。

授業の流れ：①Small Talk ⇒ 単元に関連するトピックについてやり取りを行う。
②本時の目標を確認する。
③Interaction ⇒ 提示されたテーマについて，賛成か反対かを理由とともに話して伝える。

Today' s Goal: To exchange your ideas about the Lovings' fight against racial discrimination.

Topic: Do you agree with Mr. Cohen's suggestion?

Suggestion : "To share their story with newspapers and magazines."

I agree with his suggestion because it helps people know about racism.



I disagree. Writing about it makes them feel sad again.

※話し手・聞き手に求められる留意点を示す。

※やり取りの内容は「メモ」のみとし，できるだけ見ないようにしてやりとりをさせる。

④振り返り ⇒ やり取りの音声の提出と振り返りをさせ，教師が個々人の学習状況を把握し，次時で共有したり，指導に反映したりする。

成果と課題：理由を添えてやりとりを継続的に実践することにより，英語による発信力の育成及び論理的に自分の考えを伝える力が向上した。また，グループ共有で他者の考えに触れ，柔軟な思考力や協働する力が育まれた。今後，より自分事として捉えられるような場面設定の工夫が必要である。

【事例②】生成 AI を利用して，書くことの育成を図る授業

対 象：学年 3 年生 【英語コミュニケーションⅢ】

背景と課題：語彙力・文法面での不安が大きく，教員がモデル文を示さないとほとんど書けない生徒が多い。⇒ 基礎的な知識・技能の定着と表現しようとする態度の育成の必要性

授業の流れ：①テーマの内容について自力で意見文を書く。（賛成／反対）
②ChatGPT で文法添削を行い，元の英文とどこが間違っているか比較する。
③添削後の英文を基に，図・写真などの視覚資料を使用しながら発表する。
④ペアになり相手の主張を読み取り，主張に対する反論文を書く。
⑤反論文を ChatGPT で再度添削し，内容を改善する。

成果と課題：苦手意識の軽減につながり，文法への意識と表現の改善が見られた。今後，ライティング活動における生成 AI の発展的活用を考えていく。

沖縄県：「一定の支援」を活用した「自律した英語学習者」の育成を目指して —学習基盤としてのICT活用を通して—

【実践事例①】（令和7年度沖縄県立総合教育センター「調査研究報告書」より）

- 対象生徒：第2学年
- 教科：英語コミュニケーションⅡ
- 内容：『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 外国語編』において示されている「英語コミュニケーションⅡ」では、生徒が主体的に「一定の支援」を活用する場面が想定されている。本事例では、学習基盤としてのICT活用の一例として ChatGPT の授業における実践事例を紹介する。

4 実践事例：

(1) 授業内で活用した ICT 機器及びアプリケーション

- ① Chromebook™ ② Google Classroom ③ Keynote / Google スライド™ ④ ChatGPT
⑤ Kahoot! ⑥ Gemini Canvas 作成「質問予想くん」 ⑦ YouTube™ 他

(2) 単元の流れ

単元全体を8時間で構成し、場面に応じたICTの活用を生徒自らが選択し、学びを深めていく学習環境を整えていく。



図1 単元の流れ

(3) 学習基盤としてのICT活用（一部紹介）

授業における基本的な指示や配布資料、さらに生成AI (ChatGPT) を使用する際のプロンプト等の共有は、Google Classroom を通じて実施した。これにより、生徒が必要な資料や関連リンクにいつでもアクセスできる環境を整えた。

① 授業内容の提示 (図2)

- 今日の授業の流れ
- デモ動画、サンプル資料の提示
- ChatGPT 用のプロンプトの共有

② 復習用の教材共有 (図3)

(4) 生成AI (ChatGPT) 使用時のプロンプト例

パフォーマンス課題 (スピーキングテスト) を単元におけるゴールとして位置づける際、生徒はその達成に向けたプロセスにおいて、自らに適した支援を選択しながら、原稿作成、スライド作成、質疑応答への対策などの準備を行った。なお、表1にプロンプト例を示す。

表1 生徒共有プロンプト (左：第1時における Skill Polishing の場面、右：第4時 Speaking Test に向けた準備の場面)

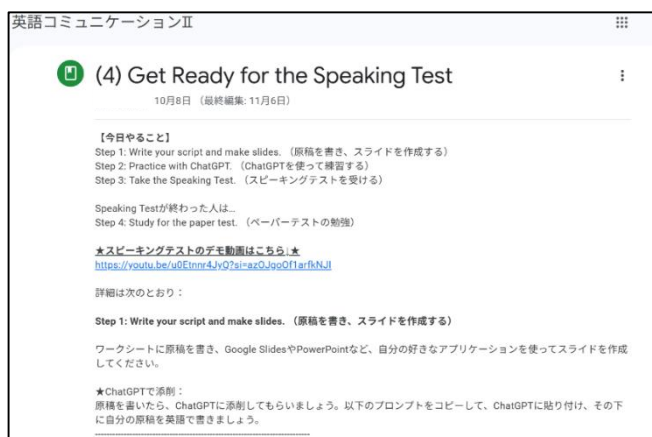


図2 Google Classroom



図3 資料共有の場面

★Skill Polishing

以下の文をコピーして ChatGPT に貼り付けてください。

You are my English speaking test partner.

Your first output must be only this sentence in Japanese:

「音声入力モードにしてください。音声入力モードにしたら、「Let's start」と言ってください。」

When I say "Let's start": Ask me these 4 questions one by one (use simple English):

Which country did you go to last week?

Did you buy any souvenirs for your family?

Did you buy any souvenirs for your friends?

Did you buy any souvenirs for me?

At the end, give me feedback in Japanese:

Score out of 100

Reason

How to get a perfect score

If I don't get 100, always ask me: 「もう一度挑戦しますか？」

★ChatGPT で添削：

原稿を書いたら、ChatGPT に添削してもらいましょう。以下のプロンプトをコピーして、ChatGPT に貼り付け、その下に自分の原稿を英語で書きましょう。

次の英文を添削 (てんさく) してください。変更した箇所は、なぜそうように変更したのかをわかりやすく説明してください。内容について質問があれば聞いてください。

(英文をここに書く)

★ChatGPT でスライド用のイラストを作成する：

以下のプロンプトをコピーして、ChatGPT に貼り付け、その下にイラストにしたい部分の原稿を英語で書きましょう。

次の英文にあうイラストを作成してください。Aspect ratio は 16:9 にしてください。

(英文をここに書く)